

## 仁淀川地域アクションプランの進捗状況等について

(第3四半期)

# 仁淀川地域アクションプランの進捗状況等

H 2 6 . 2 . 4  
仁淀川地域本部

## 1 地域アクションプランの第3四半期の実施状況（総括）

### (1) 総評

全 38 のプランについて、実行支援チームを編成、事業推進に向けた協議と進捗管理を実施し、それぞれの地域アクションプランに掲げた目標の達成に向けて取り組んでいる。

事業のさらなるステップアップや課題を抱えている案件について、人材育成の講座への誘導、アドバイザーの派遣、各種補助金の活用など、場面に応じた支援事業を導入し、具体のサポートを実施している。

特に、産振補助金を活用して整備した土佐市高岡商店街の集客施設「ドラゴン広場」や、現在、リニューアルオープンを目指して整備を進めている日高村の直販所「さんさん市」については、経営改善や運営体制の確立に向けて、実施主体との情報共有、推進のための協議を続けている。

また、平成 22 年度に設立し、旅行会社によるツアーの実績を大幅に伸ばしてきた仁淀川地域観光協議会の取り組みは、今年度も順調に入込客数を増やしてきており、引き続き、仁淀川地域の観光資源の掘り起こしを図るとともに、県の観光施策とも連携してセールス活動を進めることとしている。

### (2) 具体的な動き

#### ① 地域の重点的な動き

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p><b>地域の特徴を活かした多様な農業の展開</b></p> <p>■No.3 薬用作物の産地拡大による所得の向上 (仁淀川町、佐川町、越知町、日高村)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・農事組合法人ヒューマンライフ土佐</p>	<p>[目標 (H27) ]</p> <p>ミシサイコ作付面積：70ha サシヨウ作付面積：80ha ダダイ作付面積：30ha</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>ミシサイコ作付面積：52ha サシヨウ作付面積：65ha ダダイ作付面積：23ha</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミシマサイコの実証圃での生育調査</li> <li>・ミシマサイコ最終摘芯後の土壌分析 (8月)</li> <li>・薬用作物現地検討会の開催 (6/17 生産者及び各振興センター)</li> <li>・ツムラの意向把握 (環境農業推進課)</li> <li>・ツムラ、ヒューマンライフ土佐、越知町の良好な関係を維持するため、ツムラのCSR活動の企画・実施に参加</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安定生産技術の確立</li> </ul> <p>産地・生産者間の収量格差、発芽率が低いことによる欠株栽培技術に関する知識の不足。特に新規産地では収量</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No.4 力強い高糖度トマト産地の確立（仁淀川町、佐川町、日高村）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ J A コスモス</li> <li>・ J A コスモストマト生産部会</li> </ul>	<p>が低い傾向 ⇒農業振興センター・山間試験室での実証試験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新規産地の育成</li> <li>・ ツムラとの連携体制の構築</li> </ul> <p>[目標 (H27) ]</p> <p>販売高：5.1 億円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売高：4.5 億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栽培管理指導による栽培技術の向上</li> <li>・ 出荷販売計画の検討および出荷量確保のための個別支援、出荷データの分析</li> <li>・ 個別カウンセリングの実施</li> <li>・ 低収量農家の重点指導</li> <li>・ 光センサー等整備の検討</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 低収量農家の重点的指導</li> <li>・ 光センサー導入等による集出荷体制の整備</li> <li>・ 新商品（消費者に選ばれる階級の商品）等の販路開拓のための、レシピの検討（トマト丼）、販売戦略の新たな展開</li> </ul>
<p>「森の工場」などによる木材の増産体制の確立</p> <p>■No.13 仁淀川流域における木材産業の振興（仁淀川地域全域）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森林組合</li> <li>・ 林業事業体</li> <li>・ 素材生産業者</li> <li>・ 製材業者等</li> </ul>	<p>[目標 (H27) ]</p> <p>素材生産量：6.3 万<sup>3</sup>m</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>素材生産量：5.5 万<sup>3</sup>m</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業説明会を開催し新たな補助事業等の周知を徹底</li> <li>・ 増産に取り組む「森の工場」の事業体等の把握</li> <li>・ 森林経営計画作成の支援</li> <li>・ 製材工場の整備支援</li> <li>・ 竹炭や木材の販売強化に向けて産振アドバイザー制度を導入（仁淀川森林組合）</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 増産に向けた体制づくりを的確に進める必要がある。 ⇒林業事業体の増産能力や体制づくりの具体的な進捗状況を把握するなど、事業体等との情報共有を図りながら取組を進める。</li> </ul>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p><b>「宇佐のうるめ」の消費拡大</b></p> <p>■No. 15 うるめのブランド化(土佐市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業組合宇佐もん工房</li> </ul>	<p>[目標(H27)]</p> <p>うるめ商品の販売額: 1億円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>うるめ商品の販売額: 5,000万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4~12月の売上が、約36,000千円(前年比137%)</li> <li>・土佐市内の飲食店が参加し、うるめを活用したメニューを提供する「一本釣りうるめ祭り」を開催(4月)</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H25年度売上目標5,000万円の達成に向けて販路拡大が課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒積極的に見本市等に出展を行うとともに、新商品開発等に取り組み、販路拡大を目指す。</li> </ul> </li> <li>・売上の増加に伴い原材料である、うるめの確保が必要 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒漁業者との良好な関係を継続し、増産に対応する。</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>「土佐和紙」の販売の促進</b></p> <p>■No. 16 「土佐和紙」の販売促進と保存・継承(土佐市、いの町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手すき和紙協同組合</li> <li>・高知県製紙工業会</li> <li>・いの町商工会</li> <li>・i-nos.net 他</li> </ul>	<p>[目標(H27)]</p> <p>土佐和紙の販売額: 6.6億円(現状の確保)</p> <p>[H25到達点]</p> <p>土佐和紙の販売額: 6.6億円(現状の確保)</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ねりんピックのおもてなしグッズとして土佐楮100%の手すきはがきを制作・納品</li> <li>・手すき和紙職人の販路拡大を支援(地域需要創造型等起業・創業促進事業(創業補助金)の導入)</li> <li>・いの町商工会が、日本商工会議所の小規模事業者地域力活用新事業全国展開事業を活用して、中心市街地活性化のためのプランを策定する中で、紙の博物館を拠点として「紙の町」をPRしていくことを検討中</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手すき和紙職人の高齢化が進み、販路拡大のための営業活動が不十分となっている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒手すき和紙協同組合等と連携し、首都圏の美術大学や高級雑貨店等をターゲットに、版画・日本画の用紙や文房具等としてPRやセールス活動を行う。</li> </ul> </li> <li>・土佐和紙の伝統や工芸品としての魅力をPRする支援にとどまっているため、製紙業全般についての支援が必要 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒フォローアップ会議に新たに製紙工業会からの委員を加え、業界と情報共有を図りながら、見本市の出展など支援策の検討を行う。</li> </ul> </li> </ul>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度開催予定の高知国際版画トリエンナーレ展を契機とした販路拡大の取り組み強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒作品出展者等への版画用紙の見本帳の配布や会場での版画用紙の販売等を通じて、土佐和紙の認知度アップを図る。</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>仁淀川流域の広域観光の推進</b></p> <p>■No. 25「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進（仁淀川地域全域）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仁淀川地域観光協議会</li> <li>・土佐市</li> <li>・いの町</li> <li>・仁淀川町</li> <li>・佐川町</li> <li>・越知町</li> <li>・日高村</li> <li>・いの町観光協会</li> <li>・越知町観光協会</li> <li>・さかわ観光協会</li> </ul>	<p><b>[目標 (H27) ]</b></p> <p>仁淀川地域観光協議会関連のツアー客数：730 人  公共関連宿泊施設での宿泊者数：56,000 人  主要観光施設の入込数：140,000 人</p> <p><b>[H25 到達点]</b></p> <p>仁淀川地域観光協議会関連のツアー客数：2,500 人  公共関連宿泊施設での宿泊者数：54,000 人  主要観光施設の入込数：138,000 人</p> <p><b>[取組状況]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4～11月の仁淀川地域観光協議会関連のツアー客数が2,984人（前年比190%）と数字を伸ばしている。</li> <li>・屋形船仁淀川が1隻運航から3隻運航に増船されたことや、佐川町の牧野富太郎ふるさと館・浜口邸の落成など、新たな観光資源の充実が図られた。</li> <li>・昨年に引き続きカヌー、ラフティングといった川遊びのメニューが好調を維持している。</li> <li>・11月2～3日に広島で開催された高知フェアに参加し、仁淀川流域の物産・観光PRを実施</li> <li>・仁淀川流域6市町村の観光情報を盛り込んだパンフレットを年度内に作成予定</li> <li>・12月の臨時総会において、新たに「さかわ観光協会」の参加を承認</li> </ul> <p><b>[課題と今後の対応]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県版ふるさと雇用事業を活用しているが、H27年度からの財源確保が課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒市町村の財政負担や協議会の事業規模等について、幹事会や臨時総会等で継続して協議を行う。</li> </ul> </li> <li>・ツアーの造成が進むことによって、現地でのアテンドや営業に向ける仁淀川地域観光協議会の人役が徐々に不足してきている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒関係市町村と連携を図りながらサポートに努める。</li> </ul> </li> <li>・ツアーの造成数は順調に推移しているが、長期的に安定して誘客を行うためには、常に旅行会社やお客様に注目してもらえらる楽しみ方の提案が欠かせない。 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒研修会等を通じて市町村や観光施設の担当者の意識の</li> </ul> </li> </ul>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>醸成を図る。また定例の担当者会で素材の持ち寄りを行う。</p>

②上記以外で特記すべき取組

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 11 本川きじの販路の拡大と顧客ニーズに対応した商品開発 (いの町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本川きじ生産組合</li> <li>・庭先農家</li> <li>・いの町</li> </ul>	<p>[目標 (H27) ]</p> <p>本川きじの生産羽数：6,800羽</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>本川きじの生産羽数：6,375羽</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県中小企業団体中央会をアクションプランのチーム会に招き、本川きじ生産組合の法人化を検討中(中央会の指導により課題の抽出・解決を行い、年度内の法人化を目指す)</li> <li>・首都圏の高級イタリア料理店と商談を行い、取引開始</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状では、売上が冬期に集中しているため、通年で販売できる商品開発が課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒7～9月に産振アドバイザーを派遣しており、生ハムの新商品開発を行っている(今後、味の調整や、パッケージ方法、単価の検討などを行い、早期の商品化を目指す)</li> </ul> </li> <li>・安定した生産体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒孵卵率・飼育状況の把握と改善のため、中央家畜保健衛生所と連携して指導を行う。また経営の安定化に向けた生産組合の法人化や、出荷羽数の増に向けた鶏舎増築等の設備投資の検討を行う。</li> </ul> </li> </ul>

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 17 高岡日曜市の活性化などによる地域商業の振興（土佐市）</p> <p>《事業主体》</p> <p>・土佐市商店街活性化推進協議会</p>	<p>[目標（H27）]</p> <p>施設での販売額：1.1億円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>直販所の売上：62,000千円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H25年4月1日、集客施設「ドラゴン広場」がオープン</li> <li>・ドラゴン広場の4～11月の来場者数が78,159人</li> <li>・ドラゴン広場の直販市の4～11月売上が29,941千円</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>・ドラゴン広場は、地域の産品販売、観光情報発信、地域住民のコミュニティの場といった役割りを果たしているが、集客のための仕掛けづくりや、安定した施設運営のノウハウ獲得が課題</p> <p>⇒イベント企画・開催によって集客を進めるとともに、今後も積極的に産振アドバイザー制度等を活用して、店舗の魅力づくりや情報発信を進める。</p> <p>⇒商工会、JA、テナント、行政をメンバーとする経営改善の定例会を開催して、サービスの向上と売上増の検討と実践を続ける。</p> <p>⇒直販所の出荷者を増やすため、集荷の仕組み作りや出展の呼び掛けを続ける。</p>

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 18 いの町商店街(仁淀川七色商店街)の活性化(いの町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いの町</li> <li>・いの町商工会</li> </ul>	<p><b>[目標(H27)]</b></p> <p>いの町商店街の空き店舗率:20%未満(H23 25.3%)</p> <p><b>[H25到達点]</b></p> <p>いの町商店街の空き店舗率:21%未満</p> <p><b>[取組状況]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産振アドバイザーを派遣して、商店街でのイベント「よどがわ七色ロード」の実施方法の改善、テーマの設定方法の検討を行った(7月21日にイベント「いの職人見本市」を実施)。</li> <li>・商工会が、いの町中心市街地の再生に向けたプラン策定を行うため、日本商工会議所の小規模事業者地域力活用新事業全国展開事業に申請を行い採択決定。ワークショップの運営やプランづくりなどの支援を行っており、年度内にプラン策定の予定</li> </ul> <p><b>[課題と今後の対応]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街の情報発信の拠点として昨年度オープンした「暮らしのかけ橋交流館なないろ」の効果的な運営 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒消費者と商店主をつなぐ企画商品づくりや、PR活動の実施</li> <li>⇒「暮らしのかけ橋交流館なないろ」で実施するイベントや情報誌の充実を図る。</li> </ul> </li> <li>・中心市街地再生のプラン策定については、実行性の高いものとするため、プレーヤーとなる事業者や住民の参加が重要 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒「紙」、「職人」、「食」、「仁淀川」をテーマに部会を設け、プランが動き出した場面を想定して、「誰が、いつ、何をやるかを」明確にした、プランづくりを進める。</li> </ul> </li> </ul>
<p>■No. 19 地域産品を活用した冷菓等の製造販売(いの町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(有)高知アイス</li> </ul>	<p><b>[目標(H27)]</b></p> <p>冷菓等の販売額:4.37億円</p> <p><b>[H25到達点]</b></p> <p>冷菓等の販売額:4.12億円</p> <p><b>[取組状況]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産振補助金を活用してリニューアルした直営売店が4月20日にオープン(4~12月売上10,830千円(前年比263%))</li> <li>・販路拡大を目指し、海外(シンガポール、香港、アメリカ、マレーシア)の商談会等に積極的に参加</li> <li>・マレーシアでの販路拡大を目指してハラール認証を取得</li> </ul>



取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 20(株)フードプランを中心とした農山村 6次産業化の推進(仁淀川町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)フードプラン</li> <li>・仁淀川町</li> </ul> <p>■No. 24 企業進出による雇用の増(ペット用木 質系排泄物処理剤製造施設整備事業)(日高 村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)エスエス</li> </ul>	<p><b>[課題と今後の対応]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで冬期は閉店していた直営売店は、リニューアルに合わせて通年で営業する予定のため、季節に合わせた商品の開発が課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒蒸しパン、おしるこ、葛湯をメニューに追加済。今後もスイーツなど、夏期以外も販売できる商品開発に引き続き取り組む。</li> </ul> </li> <li>・今後の需要拡大に対応した生産体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒昨年度産振補助金を活用して、水道施設を改良しており、製造ラインをフル稼働することで増産に対応する。</li> </ul> </li> <li>・H23の震災の影響で落ち込んだ売上が震災前まで回復しておらず、新たな販路拡大の取り組みが必要 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒海外販路の拡大等に積極的に取り組み、H27の目標額である4.37億円の売上達成を目指す。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>[目標 (H27) ]</b></p> <p>販売額：4.0億円</p> <p><b>[H25 到達点]</b></p> <p>販売額：4.9億円</p> <p><b>[取組状況]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産振アドバイザーを派遣し、財務状況や売上目標、投資規模、加工施設の機能等を検討。今後、経営計画の策定に向けて、カット野菜事業や新たな加工品づくりについての経営戦略のアドバイスも受ける予定。</li> </ul> <p><b>[課題と今後の対応]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現施設でのカット野菜の生産能力が限界に達しており、生産規模の拡大を検討中であるが、投資規模が大きくなることが予想され、財源確保が課題となる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒企業において、財務面からみた借入限度額や設備投資を実施するための財務環境に係る資料を作成するとともに、金融機関の融資に対応できる詳細な事業計画の作成を検討する。</li> <li>⇒財源確保や今後の進め方について、仁淀川町で協議を行う。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>[目標 (H27) ]</b></p> <p>販売額：9,000万円</p> <p><b>[H25 到達点]</b></p> <p>販売額：4,000万円</p> <p><b>[取組状況]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日産400ケースを目指した生産体制の調整</li> </ul>

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 32 歴史的風致維持向上計画の推進(佐川町)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・佐川町</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒバを使った新商品の製造や他県の工場で製造していた商品の(株)エスエスへのシフト</li> <li>・OEM先であるアース・バイオケミカル(株)を訪問し、関係の維持と販売促進を要請(副知事、日高村、地域本部)</li> <li>・OEM先と連携した販路の拡大</li> <li>・OEM先から原料・製品をストックする倉庫の確保について協力要請</li> <li>・海外での販路拡大としてシンガポールでの展開の支援についてOEM先を訪問し情報交換(地産地消・外商課)</li> </ul> <p><b>[課題と今後の対応]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・OEM先の販促による製品の売上向上や製造コスト削減の取り組みが重要 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒OEM先の情報を得ながら、フル操業に向けた協議を進める。</li> <li>⇒他県の工場で製造していた商品の製造と新商品の9月販売に向けた本格製造を進める。</li> <li>⇒OEM先と協議しながら原料・製品倉庫の確保を進める。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>[目標 (H27) ]</b></p> <p>歴史的風致地区への入込客数：5,000人</p> <p><b>[H25 到達点]</b></p> <p>歴史的風致地区への入込客数：10,000人</p> <p><b>[取組状況]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光拠点等整備補助金を活用して牧野富太郎の生家を復元整備し、富太郎ゆかりの資料展示施設「牧野富太郎ふるさと館」としてオープン(4月24日)</li> <li>・観光拠点等整備補助金を活用した浜口邸の改修整備を完了し、一般開放(8月1日)</li> <li>・さかわ観光協会発足(4月1日)、法人化(9月20日)</li> <li>・牧野公園植栽のための苗を住民参加型で育苗、植栽</li> <li>・仁淀川地域観光協議会による旅行会社へのセールス</li> <li>・まち歩き観光ガイド(NPO 佐川くろがねの会)利用者数の増加(H23年度：3,472人→H24年度：6,746人、H25年度4～11月：4,404人)</li> <li>・観光拠点等整備補助金を活用して移築整備を行っている江戸時代の私塾「名教館」整備後の体験メニューづくりに向けて、方言を学ぶ「土佐ことば研修」を実施</li> </ul> <p><b>[課題と今後の対応]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的風致維持向上計画と整合性の取れた、街なみ環境整備の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒浜口邸の物産販売、観光情報発信機能の整備</li> <li>⇒住民参加による牧野公園植栽計画の推進</li> <li>⇒さかわ観光協会が中心となって、佐川くろがねの会との</li> </ul> </li> </ul>

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 35 越知町の総合的な観光推進と地場産品の販売促進（越知町）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おち駅運営協議会</li> <li>・越知町観光協会</li> <li>・JAコスモス</li> <li>・越知町 など</li> </ul>	<p>連携により、歴史的町並みを活用した体験観光づくりを進める。</p> <p><b>[目標 (H27) ]</b></p> <p>施設での販売額：6,000 万円  体験メニューの造成：6 メニュー  案内人養成数：6 人  ラフティングインストラクター数：8 人</p> <p><b>[H25 到達点]</b></p> <p>施設での販売額：6,000 万円</p> <p><b>[取組状況]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理者である越知町観光協会の指定管理業務から物販業務を除き、物販業務を所管する「おち駅物販経営協議会」を立ち上げた。</li> <li>・カヌー、ラフティングの利用者増加（H23 年度；カヌー59 人、ラフティング 161 人→H24 年度；カヌー282 人、ラフティング 530 人、→H25 年度；カヌー840 人、ラフティング 998 人）</li> <li>・カヌー、ラフティングガイド講習会の開催</li> <li>・横倉山案内人養成講座の開催</li> <li>・カヌー、ラフティングの基地整備に向けた越知町と観光協会との協議がスタート</li> </ul> <p><b>[課題と今後の対応]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物販販売体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒おち駅物販経営協議会において月次単位で販売動向の分析等を行い、販売現場の状況を反映したタイムリーな売上向上に取り組む。</li> <li>⇒POSシステムを活用し、日々の売上情報を配信することで棚空きを減らし、販売機会の損失を無くしていく。</li> <li>⇒産振アドバイザー制度を活用し、さらなるPOSシステムデータの活用や人材育成に取り組む。</li> <li>⇒年間の売上状況を提供することで計画的な栽培・出荷を促進していく。</li> <li>⇒会員の加入促進により商品の確保に取り組む。</li> </ul> </li> <li>・体験観光メニューの充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒横倉山案内人養成講座を開催することにより、地域資源を活かした体験型観光のメニューを充実させる。</li> </ul> </li> </ul>

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 36 直販市を核とした観光資源の整備による交流人口の増と地域の活性化(日高村)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・日高村</p>	<p>[目標 (H27) ]</p> <p>体験型観光入込客数：23,500人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>体験型観光入込客数：15,700人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県産振補助金を活用した直販所「さんさん市」のリニューアル</li> <li>・集荷の実施と生産者への出荷要請</li> <li>・店舗責任者の農業創造セミナーへの参加</li> <li>・産振アドバイザー制度を活用し、運営体制の整備、PRやイメージ戦略の策定等、リニューアルオープンに向けた準備を進めている。</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・品揃えと販売の仕組みの磨き上げや、運営主体の経営・営業体制の強化が必要</li> <li>⇒商品確保に向けた生産者への周知、出荷者の増、集荷体制の確立を進める。</li> <li>⇒産振アドバイザー制度や農林水産物直販所支援事業を活用して、リニューアルに向けた売上向上と安定した運営のための準備を進める。</li> </ul>
<p>■No. 37 屋形船を活用した拠点施設の整備による交流人口の増と地域の活性化(日高村)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・日高村</p>	<p>[目標 (H27) ]</p> <p>体験型観光入込客数：23,500人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>体験型観光入込客数：15,700人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月から屋形船を1隻から3隻に増やして運航(乗船者数；H24年度1,785人(5/6～)、H25年度4～11月2,993人)</li> <li>・屋形船仁淀川運航1周年記念イベント開催(5/3・4・5の乗船者数391人)</li> <li>・仁淀川地域観光協議会による旅行会社へのセールス</li> <li>・屋形船の発着場周辺の整備計画について協議</li> <li>・発着場に近接した河原への遊歩道等の整備について協議</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光の視点だけでなく、地域の実情に沿った拠点施設の整備が必要</li> <li>⇒役場内でのプロジェクト会議による検討や、地域住民との話し合いによる合意形成による施設整備を進める。</li> <li>・集客力の向上</li> <li>⇒モニターツアーによる課題整理や、村内の他の観光資源と連携したパッケージでの磨き上げを行う。</li> </ul>

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	⇒村内の観光資源PRのための媒体を作成 ⇒屋形船のホームページやブログを再構築して情報発信の強化を検討する。

## 2 平成25年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況(交付決定又は採択事業)

単位：千円

取組	事業概要	総事業費(補助金額)
■No. 36 直販市を核とした観光資源の整備による交流人口の増と地域の活性化(日高村) ※審査会 4/16 交付決定 6/5	直販市「さんさん市」を拡充して販売量を増やすことで農家所得の向上を図る。また、村内の商工業製品を販売する物産館の機能を持たせることで、村内商工業者の商品販売による地域経済の活性化を図る。	136,530 (50,000)

## 3 県民参画に向けた取組

- ・日高村行政連絡協議会で中山間対策(集落活動センター)の説明(4/21)
- ・越知町区長連合協議会で、産業振興計画シンポジウムのPR、中山間対策(集落活動センター)の説明(4/26)
- ・仁淀川流域交流会議で産業振興計画シンポジウムのPR(5/13)
- ・越知町商工会総会で土佐MBAの紹介、産業振興計画シンポジウムのPR(5/21)
- ・佐川町商工会総会で土佐MBAの紹介(5/22)
- ・日高村商工会総会で土佐MBAの紹介、産業振興計画シンポジウムのPR(5/23)
- ・土佐市商工会総会、いの町商工会総会で土佐MBAの紹介(5/24)
- ・いの町観光協会総会で県の観光動向、仁淀川流域への入込等について説明(5/29)
- ・商品開発や経営改善を目指す事業者等への土佐MBAの紹介(3件)

## 4 相談案件：15件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	4/4	和紙製品	手すき和紙製品の販路拡大
2	4/11	食品加工	ねぎを活用した加工製品の開発
3	4/22	食品加工	ゆず飲料用の県産ゆずの確保、非常時用の備蓄水の確保
4	4/23	茶生産者	茶の販路拡大
5	5/9	食品加工	県産の素材を活用した飲料商品の生産体制強化
6	6/7	地域活性化	中心市街地再生のための事業計画作り
7	6/21	健康福祉	食を通じた健康作り、介護予防
8	6/27	食品加工	県産の生姜を活用したスイーツ作り

NO.	相談日	事業種別	相談内容
9	8/5	製造業	竹炭製造、汚泥等を活用した固形燃料の生産
10	8/14	食品加工	山椒を活用した加工製品の開発
11	9/26	食品加工	県産の畜産加工物の生産拡大
12	9/27	食品加工	茶を活用した加工食品の販路拡大、法人化の検討
13	10/31	食品加工	県産野菜を活用したスイーツの開発
14	11/6	観光	土佐市宇佐町の観光振興
15	12/11	食品加工	地元産野菜を活用した加工食品の開発、販売